

台湾における都市景観の広告物と色彩に関する研究 ---宜蘭県広告物改善計画の事例として---

キーワード：都市景観、広告物、改善計画、色彩

陳世海

蘭陽技術学院 建築系 九州産業大学大学院芸術研究科造形表現専攻博士後期課程

Townscape of the Advertising Board and colors

はじめに

台湾の都市景観はまず目に入るのは商店街の看板だといってもいいほど、よく外国から訪れた人でも「台湾の都市景観は看板の景観だ」また「これが台湾の独特な風景だよ」と言われている。近年において、台湾の地方都市商店街の看板が一段と無秩序な現象を現わしつつあり、多種多様な形、しかも雑多な様式でかつ目立つ色使いに関し、殊に突き出し看板による隣店の看板だけではなく都市景観に悪い影響を及ぼすことが学者、専門家からさまざまな議論の中、2000年に政府は都市景観を改善する一環として台湾全島各県庁に商店街看板の改善計画案を政府に提出し、審査を受けた23県のなかに僅か3分の1の県を選ばれ、政府の補助金を受けた県は本格的に商店街看板の改善の契機に入り、宜蘭県もその中の一県となる。

こうした背景の中で筆者の勤める大学¹が県庁から委託を受け、宜蘭県商店街の看板改善計画案の担当者として、最初の計画から最後の一つ看板を取り付けるまでおよそ二年間にわたって全般的なプロジェクトに現場にて実施して無事終了というわけである。無事と言っても今日この看板改善計画全体を繰り返してみるとまだまだ当初改善計画に至らない所も決して少なくないと思われる。

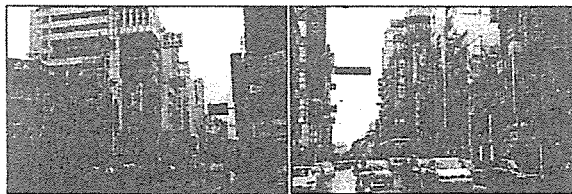


図1. 台湾の都市景観

これをきっかけとして、本論では今回宜蘭県改善計画実施前後や前向きを踏まえ、早期台湾の商店街看板、日本東京の商店街看板、ヨーロッパの商店街看板を総合的に考察することによって再び政府に改善提案することになる。

宜蘭の別名は「蘭陽」とも呼ばれ、台湾の北東部に位置し、蘭陽平原に加える山間部、離島など全面積は2143.6257平方キロ、東側は太平洋に臨む、海岸線全長約101キロで、県の北沿岸で見える洋上に浮かぶ1つ小さな島は亀の形に似ていて「亀山島」と呼ばれ、県のシンボルであり、西側は青い山脈で南北縦断し、海拔100メートルより3535メートルまでの南湖大山がある。

人口は45万人を超え、男女の数は男性の方がやや多い。対外交通は北廻鉄道で、上りは台北市と西部の各県へ下りは花蓮、台東まで、主な外部連絡道路として太平洋沿い南北通るの海浜道路、台北と宜蘭の繋がる北宜道路と南行きの蘇花道路などがある。因みに県の地理位置として日本の沖縄県石垣市に一番近い県であると思われる。

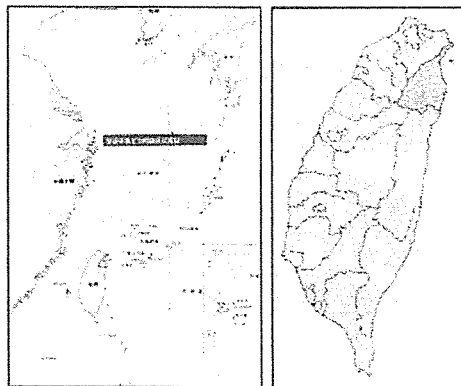


図2. 宜蘭県の地理位置

1-2. 宜蘭県の自然景観

綺麗な自然景観をもつ県であり、県民にとって美しい山や美味しい水があってよく人に「我が郷は好山好水があり」という誇り言葉もある。県の東側は太平洋、西側は青い山々、海拔を1000メートル以上の棲蘭山、太平山とも台湾の有名な避暑地である、太平山、南湖大山あたり年に2~3回、雪が降るそうです。南側は花蓮県と接し、北側は台北県と密接することになる。

¹、今回宜蘭県広告物改善計画案は宜蘭県庁による蘭陽技術学院建築学科に委託する件で計画に関する内容は筆者が担当したものです。